

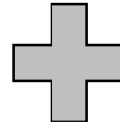
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 TDM(物流関係)への取組みについて

東京2020オリンピック・パラリンピック開催時の物流について①

必要な対策(交通マネジメント)

交通需要マネジメント(TDM)

移動の日時や経路の変更、他の交通手段への転換といった交通行動の変更を促進し、交通混雑の緩和を実現する取組



交通システムマネジメント(TSM)

道路の交通混雑が想定される箇所等において、実効性を伴う通行抑制や通行制限による交通量のコントロールを行う取組

※道路交通における目標

【一般交通】：東京圏の広域における一般交通について、大会前の交通量の一律10%減を目指す。特に重点取組地区については、出入りする交通量の30%減を目指す。

【首都高速道路交通】：東京圏のオリンピック・ルート・ネットワークの基幹をなす首都高速道路については、交通量を最大30%減とすることで、休日並みの良好な交通環境を目指す。

東京都「2020アクションプラン」

大会時に想定される交通混雑を回避し、企業活動を維持するための方策をまとめるもの

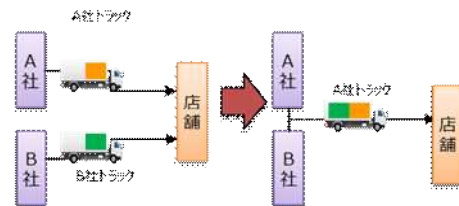
- ◆対応可能な対策について項目を抽出
- ◆社内で取組が実施できるように準備

取組項目例(物流関係) ⇒ 同業種や近接エリアでの共同物流の実施

混雑緩和に向けた輸送量の抑制を図るための取組例

共同輸配送

- 複数事業者の連携による共同輸配送でトラック走行量削減



平準化

- 共同輸配送や定曜日配送により輸送量を平準化することにより、トラック走行量を削減

定曜日による平準化

発荷主	着荷主	月	火	水	木	金	土	日	平均稼働率
A社	Z社	○	○	●	○	●	○	-	60%
B社		○	○	●	○	○	○	-	38%
C社		○	○	○	○	○	○	-	37%
D社		○	○	○	○	○	○	-	60%
トラック台数		2	2	2	2	2	2	2	

東京2020オリンピック・パラリンピック開催時の物流について②

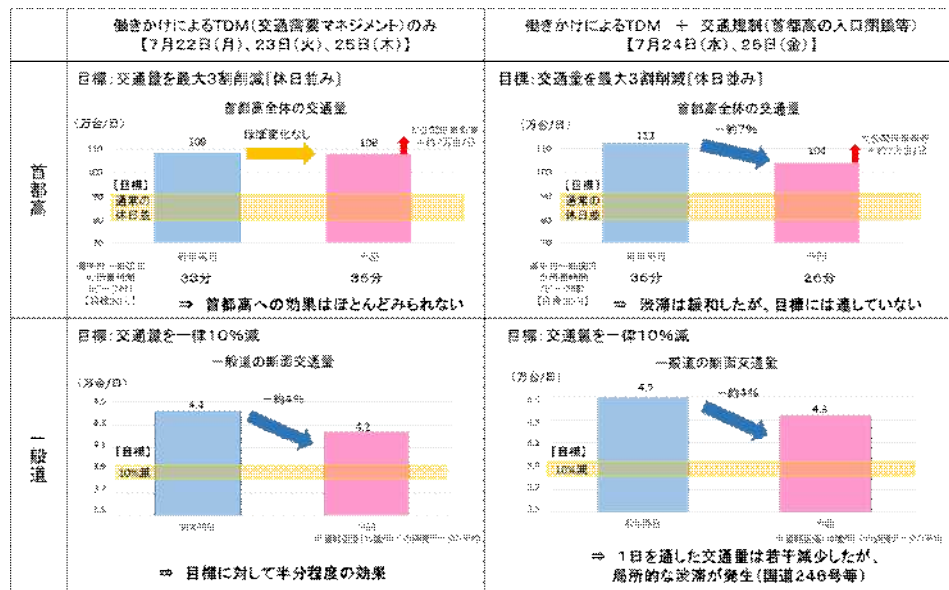
2019年夏の試行(7/24, 26)

大会本番並みの目標を掲げ、交通混雑緩和に向けた取組を総合的にテストする期間を設定

<試行の主な内容>

- TDMに関する試行【企業等への働きかけ（東京圏、重点取組地区、特定エリア等）、政府・都庁の取組 等】
- TSMに関する試行【高速道路の本線料金所流入調整、入口閉鎖、一般道路の交通対策（信号調整）】

【夏の試行期間中の交通量】



【夏の試行期間】

2019年カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
7/14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	8/1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
9/1	2	3	4	5	6	7

試行期間(スムーズBiz推進期間): 7/22~26

集中取組期間①(7/22~8/2)

集中取組期間②(8/19~8/30)

(参考)2020年カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
7/19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	8/1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	9/1	2	3	4	5

オリンピック期間(7/24~8/9)

パラリンピック期間(8/25~9/6)

→主に一般道で一定のTDMの効果が現れたものの、**交通量の削減目標には届いていない状況**。特に首都高において大会関係車両等による増加が見込まれる中、**TDMによる一層の対応が必要**。

大会輸送と経済活動の両立に向けて

(物流事業者等の課題意識(ヒアリング結果))

○輸送量の抑制は物流事業者の取組みだけでは実現が難しく、荷主企業等関係者の理解を得ることが必要不可欠

○配送ルートの変更や納品頻度の見直し等について、**荷主企業と物流事業者が一体となり、早めに混雑を避ける準備が必要**